

【国語－１】

実践事例：小学校１年生 ／実施機関：学校法人光華女子学園

●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・落ち着いて集中して聞くことに課題がある。
- ・教師の指示が入りにくく、注意力散漫で落ち着きがない。
- ・発表の時、場面によって声の大きさを調節できない。
- ・忘れ物や紛失物が多く、整理整頓ができない。
- ・気持ちのコントロールができない。
- ・少し分からない時や、他の児童より作業が遅れると、途端にやる気をなくすことが多い。
- ・新しい学習に入ると、まず「できない。わからない。」と戸惑いが見られる。
- ・物語文で登場人物の気持ちを考えることが難しい。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）
その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること
学習（計算、推論等）すること その他

- ・落ち着いて聞こうとする姿勢が乏しい。
- ・おしゃべりがとまらない。
- ・教師の話を見聞かずに、突然答えを言う。
- ・やりたい事を阻止された時かんしゃく（パニック）をおこす。

2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

幼稚園との引き継ぎ時期（3月）
4月～6月

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

- ・担任による観察
- ・「気づきのシート」の項目により児童の様子をまとめる。
- ・教科担任や特別支援教育支援員の入り込みにより情報共有をする。



(4) (3) の効果・評価

(児童生徒の様子や変容および授業の評価)

- ・「きくきくドリル」が楽しく、2回目からは授業のはじめから落ち着いてイスに座り始めるのを待てた。
- ・研究授業で、参観者がいても落ち着いて座っていた。
- ・発表の練習時も、グループの児童と声の大きさ、口のあき方や前へ向く姿勢等を注意しながら練習ができた。
- ・他の人の発表時は少し、姿勢が崩れたが、入学当初よりは落ち着いてきた。
- ・スキンシップを取りながら不安を解消し、ほめていくことでやる気を出せるように心がけた。

【国語－２】

実践事例：小学校２年生 ／実施機関：学校法人光華女子学園

●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・落ち着いて集中して聞くことに課題がある。
- ・教師の指示が入りにくく、注意力散漫で落ち着きがない。
- ・発表の時、場面によって声の大きさを調節できない。
- ・忘れ物や紛失物が多く、整理整頓ができない。
- ・気持ちのコントロールができない。
- ・少し分からない時や、他の児童より作業が遅れると、途端にやる気をなくすことが多い。
- ・新しい学習に入ると、まず「できない。わからない。」と戸惑いが見られる。
- ・物語文で登場人物の気持ちを考えることが難しい。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症 □情緒障害 □LD（学習障害） □ADHD（注意欠陥/多動性障害）
- その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること ■聞くこと □話すこと □読むこと □書くこと □動くこと
- コミュニケーションをすること ■気持ちを表現すること
- 落ち着くこと・集中すること □概念（時間、大きさ等）を理解すること
- 学習（計算、推論等）すること □その他

- ・聞こえた言葉をそのまま繰り返して言う。
- ・学習意欲はあるが、わかっているか、わからないのか不明である。
- ・場の空気が読めない。
- ・人の事が気になり指示されたことを自分からはできない。
- ・自由な時間があるとどうして良いかわからない。
- ・絵を見てお話を作ったり、「～ しました。」という文章を作ることはできる。

2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

4月～5月の状況。その他、定期的に観察記録をつける。

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

旧担任と保護者との情報交換、特別支援教育支援員との定期的情報共有。

「気づきのシート」による児童の様子をチェック

「ノート点検」や「テスト」を通して把握

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・相手の気持ちを考えることが苦手で、読み物の教材では、登場人物の気持ちを考えることが難しい。
- ・「～しました。」という文は沢山作れるが、「〇〇さんは～思った」という気持ちは書けない。
- ・指示に従わず勝手にノートに書いたりしているので、質問が理解できていない場合は答えが分かっているにもかかわらず発表ができない。
- ・他者の発表を聞く時、長い文であると聞き取れない。
- ・想像して文を作ることができない。
- ・絵から分かる様子は、とてもよく見つけて発表できる。
- ・説明文の読み取りはできる。漢字には困りを感じていない。

(2) つまずいている背景・原因

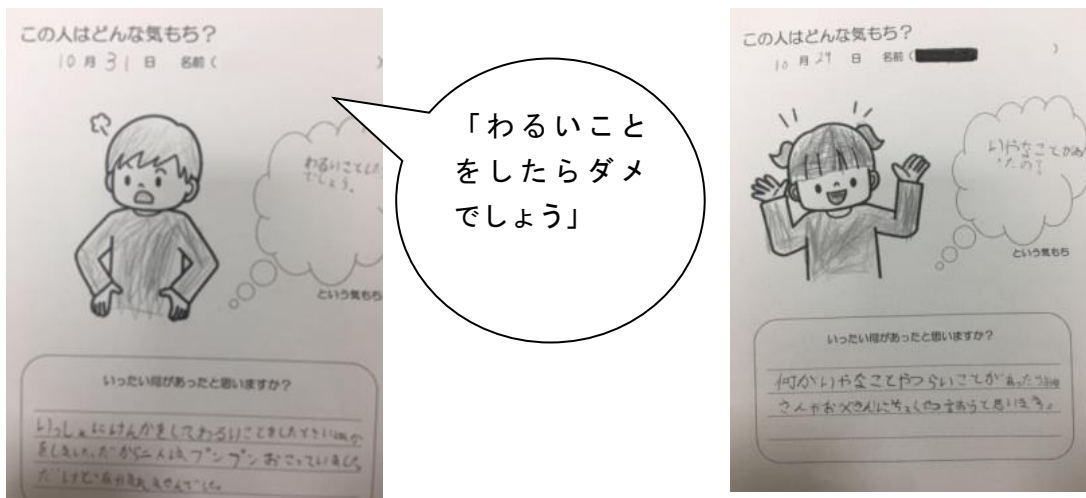
- ・教師の指示が入りづらく、注意力散漫で落ち着きがない。
- ・聞こえた言葉をそのまま繰り返して言う。
- ・場の空気がよめない。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

(全体への指導)

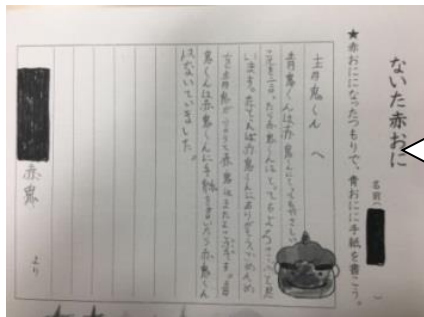
- ・本時の「めあて」を板書すると共に、声に出して全員で確認をする。
- ・絵を用いて話を作れるようにする。
- ・登場人物の感情を文字におこせるようにする。
- ・人のイラストを見て、「どんな気持ちなのか？」を想像して文字にする。
(人の感情を表している絵を見て、短文でどんな気持ちなのか書く練習をした。)



(「～しました。」「～したらだめでしょう」という文になっていた時もある。)

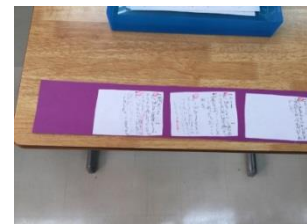
- ・生活科と結びつけて大切に育てたザリガニのことを伝える文章を書くことで、自分の思いを伝えられるように工夫をした。
(誰に伝えるのかを確認する必要がある)
- ・自分が書いた文をグループ内で交流をし、人が書いた文章も読んで自分と比較できるようにした。(他の人の手紙を見せることで、自分とは違う見方、気持ちもあるのだとわかれば良い。)(今すぐ正解が分からずとも、目に見えないものを考えていくことを、繰り返し教えて行くのが大切である。)
- ・聞く力や集中力をつけるため、短時間で「きくきくドリル」を活用する。

【赤おにになったつもりで、青おにに手紙を書こう】



「青鬼くんは赤鬼くんにとってもやさしいことを、言ったら赤鬼くんはとても喜ぶと思います。赤鬼くん有り難う、ごめんねを言うと喜びます。」

- ・【カード】をつくり「出来事」「様子」「自分の思い」をもとに自分の言葉を入れて文をつくりいけるようにする。
発表もその順番でできるようにし、自信をつけさせる。



(個別指導)

- ・保護者との連携で、授業で進む少し前を予習してもらおう。
- ・特別支援教育支援員が「自分だったらどうする?」「こんな時どう思った?」等々寄り添い助言をする。
- ・できている所はほめて発表を促す。

(ii) 個別指導について (取り出し指導、通級による指導との連携など)

- ・取り出し指導・通級による指導は行っていないが、授業の前後には、特別支援教育支援員と打合せをし、支援の方向性を確認する。

(4) (3) の効果・評価 (児童生徒の様子や変容および授業の評価)

- ・身近な観察等を通して自分の思いを持つことをねらいとしたことで、「出来事」「様子」は書けるようになった。
- ・交流活動での児童の思いや赤鬼の立場にたって手紙を書くことにも挑戦させた。
- ・自分の思いや人の気持ちを想像することは難しい。繰り返しほめながら「できた!」「分かった!」「もっとやりたい!」との気持ちにさせることが大切である。
「伝えたいこと、理解してもらいたいこと」を明確にし、交流できる学習の場を設定していく。

【国語－3】

実践事例：中学校1年生 / 実施機関：学校法人光華女子学園

●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

- ・読書が好きで、国語に対する関心も高いが、書字が整わず表現する事が苦手である。
- ・漢字の練習などで、写し間違いや勘違いなどのミスが多い。
- ・写し間違いが多いため、作文など文字を書くときに誤字脱字が多くなる。
- ・思いや考えを言葉で表現することが難しいため、作文を書くのが苦手である。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）

■その他

(2) 子供の困難さ

見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと

■コミュニケーションをすること ■気持ちを表現すること

落ち着くこと・集中すること ■概念（時間、大きさ等）を理解すること

学習（計算、推論等）すること その他

- ・漢字や作文など「書くこと」に課題が見られる。
- ・板書の写し間違いが多い … （例）月火水木金「度」
- ・自分の思いや考えを言葉で表現する事（アウトプット）が難しい。
- ・コミュニケーションがとりにくい。

2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

4月～5月 中間テスト終了後あたり

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

特別支援教育コーディネーターの指示で、担任・学年会・教科主任会等で情報交換

「気づきのシート」により状況把握

スクールカウンセラーや特別支援教育支援員との連携

中間テストの答案用紙・ノート点検・授業中の様子等まとめて情報共有

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・書字が整わない。文字の大きさや筆圧には問題はないが、文字のバランスが悪く、誤字脱字も目立つ。また、罫線があっても、文が波打つ所もある。

- ・漢字の練習や板書などで、写し間違いや勘違いなどのミスが多い。(例)月火水木金「度」
- ・読書が好きで、国語に対する関心も高いが、思いや考えを言葉で表現すること（アウトプット）が難しい。

(2) つまずいている背景・原因

- ・先天的な問題の可能性が有るかもしれないが不明である。(文字の見え方、注意欠陥・・・)
 - 持病「くも膜のう胞」
- ・自己肯定感の低さ。
- ・テストにおいて、何を問われているか分からない。
- ・作文においてどのように書いたらよいか、何から書き始めたらよいか等が分からない。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

(全体指導)

- ・授業の流れの可視化（現在の進度を適宜矢印で提示）。
- ・「めあて」の明示、ふりかえりシートの記入。
- ・明確な問い、学習活動の際の例示、可視化。
- ・要約する時や作文指導時における、ワークシートの活用。
（ワークシートは罫線を明確にし、図式化。記述しやすいようにする。）
- ・シンキングツールの活用。（思考の深化を図る。）
- ・ビブリオバトルにおいて、事前にポップを作らせ、それを書画カメラで提示させながら本の紹介をさせた。

(個別指導)

- ・読書感想文をPCで作成することを承認。
- ・作文の個別指導。プリント添削。
- ・スモールステップの承認。（挙手、発言を認め、意欲を持続させる）

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

行っていない。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・個別の対応をする中で、「自身が書くことに対して苦手意識を持っている」という事を、伝えることができた。
- ・挙手を励まし、発言を認めることで、意欲を維持することができた。
- ・作文指導において、比較することや、身近な例を探すこと、グループ学習で意見交流すること等、段階を経ることで、書く分量を増やし、内容も深めていくことができた。

「ことわざ」スピーチ 具体例を挙げて伝えよう。

(目標)具体例を取り入れ、順序立てて話を組み立てよう。



シンキングツールを活用した授業

考えを進める手続きやそれをイメージさせる図として見せるための手順や図をシンキングツールと呼び、思考の可視化に活用できる。

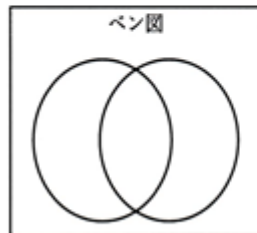
1 シンキングツールの役立て方

- ① アイデアや問題を可視化するため
- ② 考えや情報を整理するため
- ③ 考えをすぐにフィードバックするため
- ④ 学んだこと同士のつながりを明確にするため
- ⑤ 意見を友達同士で共有するため
- ⑥ 知識を新しくつくりあげるため

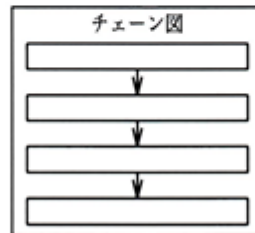
シンキングツールを活用した授業

2 シンキングツールの例

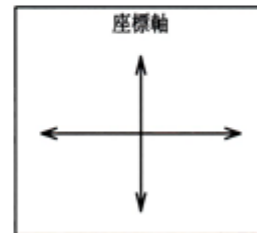
①ベン図



②チェーン図



③座標軸



シンキングツールはこれ以外にも20種類以上ある

【国語－４】

実践事例：高校１年生 ／実施機関：学校法人光華女子学園

●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・書く文字のバランスが悪い。
国語のみならず数学のノートもスペースの取り方も一定ではなく読みづらい。
社会においても罫線２行をつかって書き、字が大きくなる。
- ・授業への参加姿勢は意欲的である。
- ・非常に前向きな姿勢で授業に参加している。(積極的に挙手という形で見ることができる)
- ・自分なりに考え、意欲的・積極的に答えることができるが、発言が指導者からの問いかけからずれていることもあり、本人はそれに気づいていない。
- ・周囲の空気が読めず、一人だけ目立つ場面がある。(手を挙げるタイミングではない時に挙手する。)
- ・古文読解に必要な基本的語彙、文法が理解できていない。
- ・内容を踏まえ、筆者のものの見方を理解することが難しい。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD (学習障害) ADHD (注意欠陥/多動性障害)
その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること
落ち着くこと・集中すること 概念(時間、大きさ等)を理解すること
学習(計算、推論等)すること その他

- ・挙手を求めているときに挙手するなど、その場の状況が分かっていない場面が見受けられる。(場の空気がよめない。)
- ・今何をやる時間なのか、その場の状況がわからない。

2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

4月～5月下旬

(2) 実態把握の方法(実施者・方法)

特別支援教育コーディネーターの指示で、担任・学年会・教科主任会等で情報交換
「気づきのシート」により状況把握
スクールカウンセラーや特別支援教育支援員との連携
中間テストの答案用紙・ノート点検・授業中の様子等まとめて提出

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・小説の読解ができない。
- ・主人公や他の登場人物の気持ちを読み取るのに、どこからそのように読み取ったのか文章中の表現や言葉を明確にすることができない。
- ・授業には積極的で挙手や発言も多くするが、聞かれたことに対して的確に答えられず、ずれた発言をすることがある。
- ・挙手を求めているときや他者の発言内容と同じ内容のときでも、自分が分かったときに挙手、発言をする。
- ・ノートの整理ができず、指示どおりに正しく板書ができない。

(2) つまずいている背景・原因

- ・発言したい気持ちが大きく、教員の発問内容や他者の発言を落ち着いて聞き、理解することができない。
- ・書く時、考える時、発表する時というように、今は何をやる時間なのかというその場の状況が分かっていない。
- ・板書の際、ノートのどこに何を書くべきか、見通しをもつことができない。
- ・小説の読み方（何ができれば小説を読んだことになるのか）が分かっていない。
- ・じっくり考えず、すぐに発言しようとする。
- ・いろいろなものをつなぎ合わせて判断することが難しい。（多面的な見方がしにくい。）

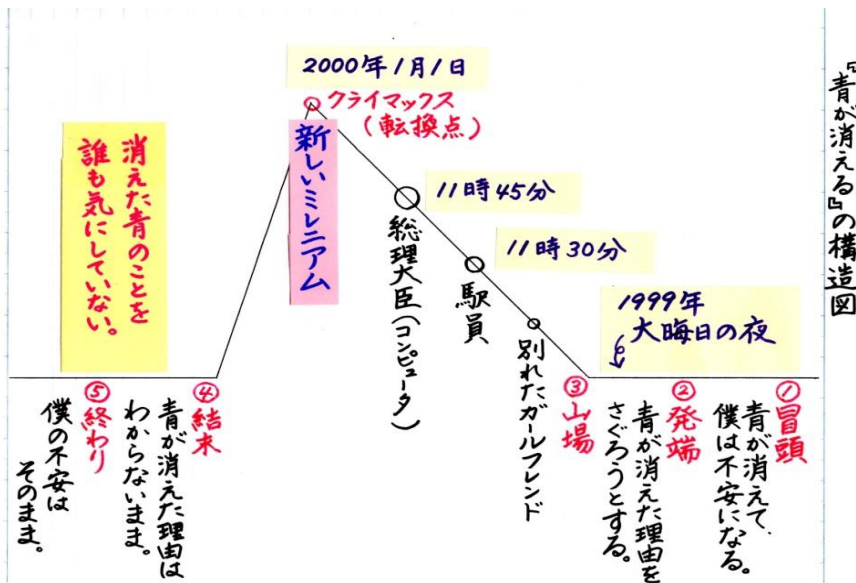
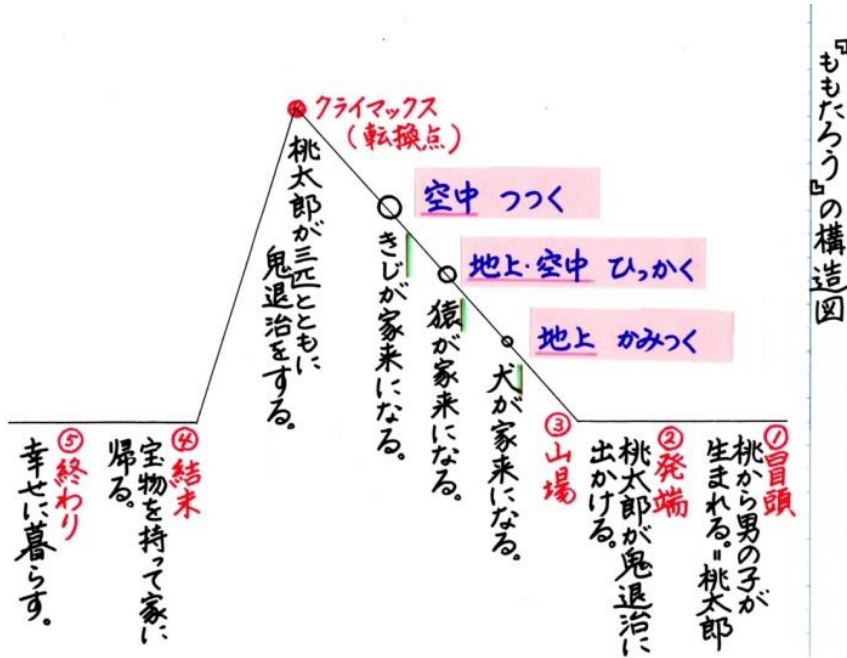
(3-1) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

【全体指導】 小説『青が消える』(村上春樹)より

- ・小説の読み方を理解する。(何をすればいいのかを生徒が理解する。)
- ・読み方の「型」として、視点・登場人物・設定・プロット・構造・主題の6つを読み取ればよいことを確認する。継続的な指導。
 - 1 視点：1人称小説であるのか3人称小説であるのかを明らかにする。
 - 2 登場人物：文章中から探し出す。主人公の確認。登場する人物同士の関係。
 - 3 設定：時代・季節・時間・場所などを文章中から探す。
 - 4 プロット（筋書き）：5W1Hを意識しながら、いつどこで誰がなぜどうした話なのか。
 - 5 構造：①冒頭 ②発端 ③山場（クライマックス）④結末 ⑤終わり の構造。
話が大きく変わる点（クライマックス・転換点）を探す。その前と後で主人公の気持ちにどのような変化が起こったのかを読む。図式化。
 - 6 主題：作者は何を読者に伝えたかったのかをグループで話し合い、200字でまとめる。
書き出しを示したり、キーワードとなる言葉を複数示したりする。
よく書けている生徒の文章を後から見せる。

- よく知っている昔話『ももたろう』と比較することで内容理解を深め、主題を探ることにつなげる



- ・登場人物の気持ちを推測
- ・登場人物の確認
- ・内容理解のため「構造図」を図示
- ・4人グループで話し合い
- ・「青が消える」と「ももたろう」を比較・共通点・相違点をみつける

小説「青が消える」(村上春樹)

僕

別れたガールフレンド

駅員

総理大臣



「ももたろう」

桃太郎

犬

猿

きじ



(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）
行っていない。

(4-1)(3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

・みんながよく知っている昔話『ももたろう』を教材にして共通点・相違点を探ることが、
主題をつかむのにとっても役立った。

共通点：①主人公は男である。「僕」「桃太郎」

②主人公に関わる人物（動物）が三人（三匹）いる。

「別れたガールフレンド・駅員・総理大臣（コンピュータ）」「犬・猿・キジ」

③主人公は物事を解決するために行動を起こす。

「青が消えた理由を探る」「鬼を退治する」

④途中で出会う人物（動物）が主人公から身近な人物からだんだん遠い人物になっている。

「別れたガールフレンド・駅員・総理大臣（コンピュータ）」「犬・猿・キジ」

相違点：①主人公が何をすればいいのかが明確であるかないか。

「青が消えた理由を誰が知っているのかわからない」「鬼退治をすれば人々が
幸せになる」

②途中で合う人物（動物）が協力的かそうでないか

「別れたガールフレンドは無関心・駅員は逃げ腰・総理大臣（コンピュータ）
は何かを隠蔽」

「犬・猿・キジそれぞれがきび団子をもらって、桃太郎の鬼退治に協力する」

③主人公に課せられた課題が解決したのかしないのか

「なにも明確にならないまま不安だけ残る・モヤモヤしたまま」

「桃太郎は三匹の協力を得て鬼退治をし、村人は幸せに暮らす。めでたしめでたし。」

(3-2)(1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

【全体指導】 古典『徒然草—神無月のころ—』より

- ・発問時の、「発問⇒考える⇒書く⇒聞く・発表する」の流れをパターン化する
- ・何を聞かれているのかを明確にするため、発問を口頭で済ませず板書して視覚的に捉えられるようにする。
- ・発問の際は、「Q1、Q2…」という発問の仕方に統一し、すぐに挙手せず記入する発問だと分かるようにする。
- ・どこに何を書くかというルールに慣れるため、記入用プリントを作成し、毎時間同じものを使用する。また、それをノートに貼ることで板書の手助けとなるようにする。
- ・「自分の考え」と「クラスの考え」を分けて記入できるように枠を作り、自分と他者の意見を分けて捉えられるようにする。また、他者の意見にも注意を向けられるようにする。

(4-2)(3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・自分とクラスの意見を区別して捉え、他者の意見にも注意を向けることができた。
- ・プリントのルールに慣れ、書くべき場所を整理できるようになってきた。
- ・しかし、プリント以外の発問に対しては、挙手を求めている場面でも手を挙げることもあるため、こちらが明確な指示を出すよう意識しなければならない。



【算数】

実践事例：小学校3年生 / 実施機関：学校法人光華女子学園

●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・小数と整数や四則計算が混じってくると混乱が起きる。
- ・図形や長さしらべ、抽象的な問題に対しての苦手意識がある。
- ・文章題における読み解く力が弱い。
- ・問題の難易度が増す毎に自力解決しようとする力が弱い。
(答えがすぐに出てこない問題)
- ・よりよい考え方解き方等協働作業が苦手である。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD (学習障害) ADHD (注意欠陥/多動性障害)
 その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと
 コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること
 落ち着くこと・集中すること 概念(時間、大きさ等)を理解すること
 学習(計算、推論等)すること その他

- ・自閉症スペクトラム
- ・友だちと遊んでトラブルになることが多い。
- ・コミュニケーションがとれない。他の人と関わり合いを持ちたくない。
- ・新しい場面になじめない。
- ・耳からの情報を正確に判断できない。(すべり台→すべい台 そろばん→そーばん)

2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

4月～5月末

(2) 実態把握の方法(実施者・方法)

担任・保護者・特別支援教育支援員との情報交換

「気づきのシート」「ノート」「授業中の様子」「テスト」等から観察

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまづきの内容

- ・計算問題(基本的な四則計算は自信を持っている)はできるが、文章問題を解くのが苦手である。

- ・ 作文や読解、読む事も苦手である。
- ・ 問題文から必要な情報を読み取る力が弱く、数字だけを見て問題を解こうとしてしまう。

(2) つまずいている背景・原因

- ・ コミュニケーションがとりにくい。
- ・ 文章題に苦手意識がある。
- ・ 新しい場面になれにくい。

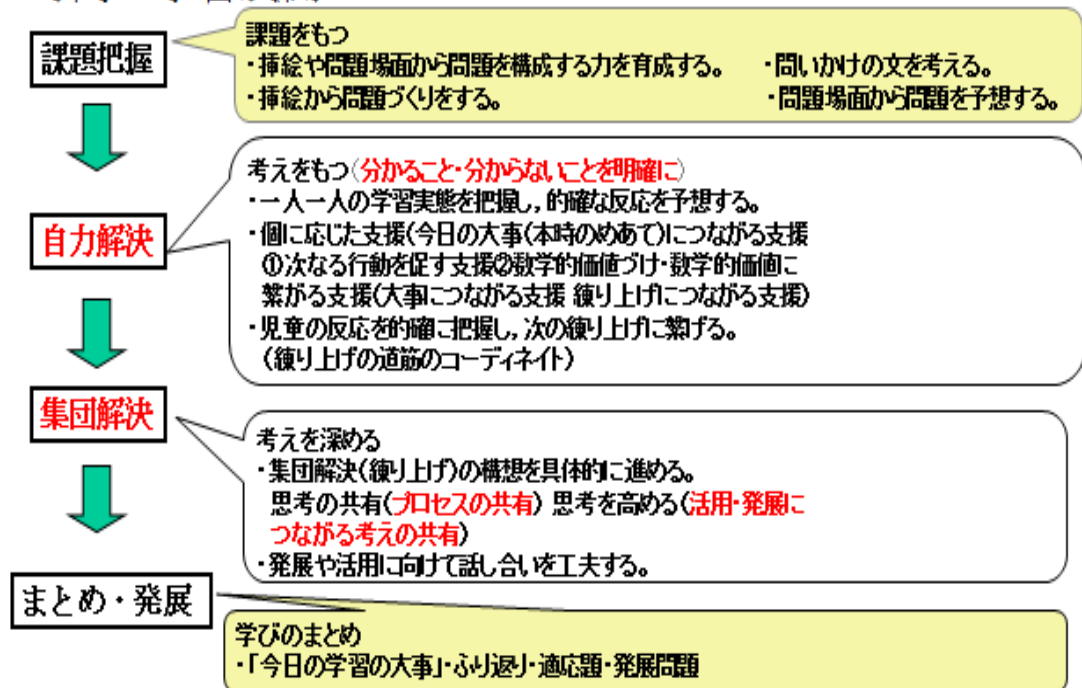


(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点
(i) 授業における全体指導、個への指導について

(全体指導)

- ・ 学習に関する基本事項が定着しやすいように教室の掲示物の作成をした。
- ・ 「めあて (青) / まとめ (赤)」で囲む。
- ・ 興味を持たせる雰囲気をつくる。
- ・ 問題文を写すだけでなく、「問題文」「めあて」を全員で読む。
- ・ 授業の流れを統一する。

1 時間の学習展開



- ・ 友だちの考え方に触れたり、自分の考え方を伝えられるようにする。
- ・ ペアワークやグループ活動を取り入れる。
- ・ 文章量が多くなるときは、問題文の書き方を一文が2行にまたがらないように書く。
- ・ ノート指導についてもわかりやすく、まとめのノートを作らせる。
- ・ 数直線、線分図、式、ことばを使って考える。(0. 6は0. 1の6個分)

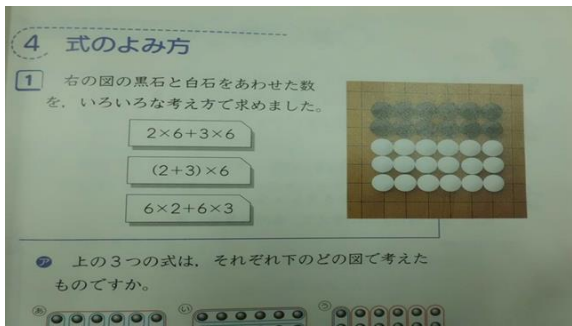
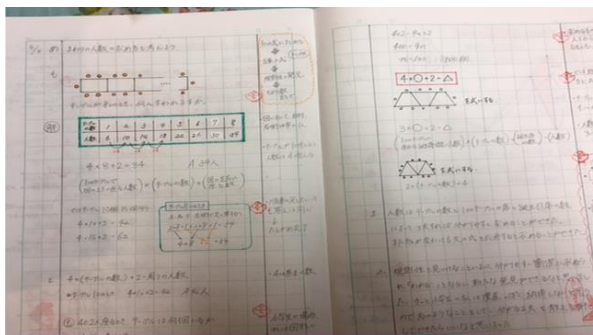
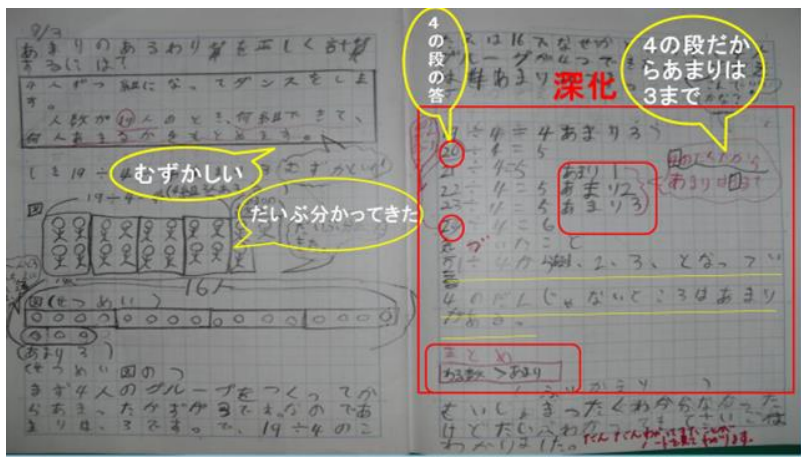
- ・ 解き方を教え込むのではなく、自分で考えて、解き方を見出すようにする。
- ・ なぜそうなるのか、その根拠が明らかになるようにする。根拠を言語化する。
- ・ 考えのプロセスを大切にする。
- ・ 考えることの楽しさ、おもしろさを味わい、学習に対する意欲を喚起する。

数学的活動を活かして考える。



問題解決学習をすすめる。

話し合い活動を通して考えを深める。



- (ii) 個別指導について (取り出し指導、通級による指導との連携など)
 - ・ 特別支援教育支援員の入り込みと他機関との連携は行っているが取り出し指導、通級による指導は行っていない。
- (4) (3) の効果・評価 (児童生徒の様子や変容および授業の評価)
 - ・ 授業の流れを統一することで、安心感をもって授業に臨める。

- ・ペアワークやグループ活動でも一緒に考えようとしている姿が見られる。
- ・自分で考える問題は、特別支援教育支援員がヒントを出して一緒にやると出来る。
- ・得意なそろばんの学習では自信満々の姿が見えた。



【数学－１】

実践事例：中学校２年生 ／実施機関：学校法人光華女子学園

●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

- ・集中して話が聞けないため、間違った理解をする。
- ・ノートテイキングが遅く、「書く」と「聞く」が同時にできない。説明を聞き逃すことがある。
- ・ノートは「空白をつくってはいけない」という自分ルールがあり、ノートが非常に見づらく、ノートの役目をしていない。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）

■その他

(2) 子供の困難さ

見ること ■聞くこと 話すこと 読むこと ■書くこと 動くこと

■コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること

落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること

学習（計算、推論等）すること その他

- ・相手との距離がつかみにくい。同級生とうまくコミュニケーションが取れないため、1人であることが多い。
- ・自分の話したいことを一方的に話す。
- ・興味関心のないことは覚えられないため、朝礼時の連絡内容を覚えていないことが多い。
- ・思ったことを口にしてしまう。

2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

4月～5月下旬

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

担任・保護者・特別支援教育支援員・教科担任等情報共有

ノート・テスト用紙・「気づきのシート」等から本人の困難さをつかむ

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・説明時に聞き漏らすことが多く、解き方を間違えることが多い。
- ・ノートテイキングが遅い。「書く」と「聞く」が同時にできない。

ノートは「空白をつくってはいけない」という自分ルールがあり、ノートは非常に見づらい。

- ・図形の性質を発見して、証明することが難しい。

(2) つまづいている背景・原因

- ・自分の関心事があればそちらに意識が集中していく為、話の内容が分からなくなる。
- ・ペースが遅い
- ・先生が説明している時でも、プリントをきったり、はったりと違うことをしてしまうので、説明を聞いておらず、質問をする。
- ・一度説明されていることでも、また質問をする。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

(全体指導)

- ・事前に準備している課題についてはプリントを配布しておく。
- ・「授業中に説明を聞く。」「発問について考え答える。」「ノートに写す。」時間を明確に分けた。
- ・数学のノートの書き方について、統一したルールを作った。
 - a. 必ず一行あけて書くこと
 - b. 計算のときの「＝」は横に書かず、改行して書くこと
 - c. ノートにプリントを貼るときには、必ず全面が見えるように貼ること
(折り曲げない)
- ・「仮定(わかっていること)は何か?」「結論(これからいいたいこと)は何か?」「説明をする上で必要な根拠は何か?」「どのような手順で考えればよいか?」がより明確になるように、補助としてカードを用いる。カードの並べかえを見ることで、思考の整理ができるようにした。

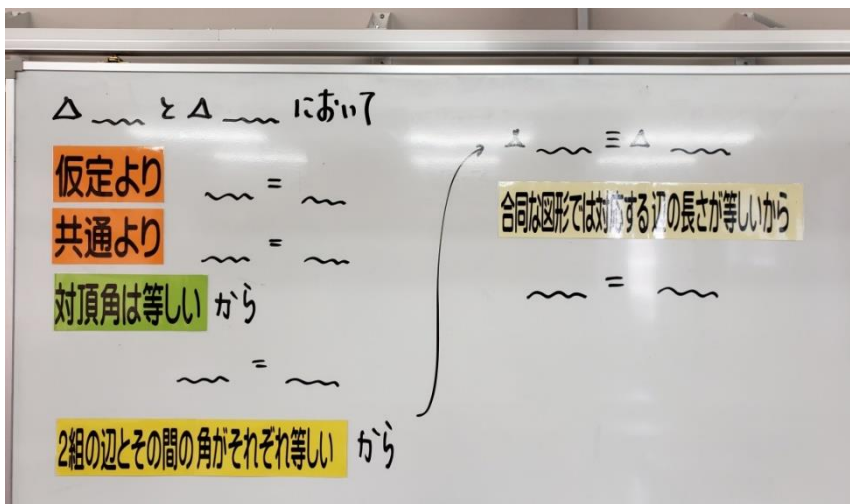
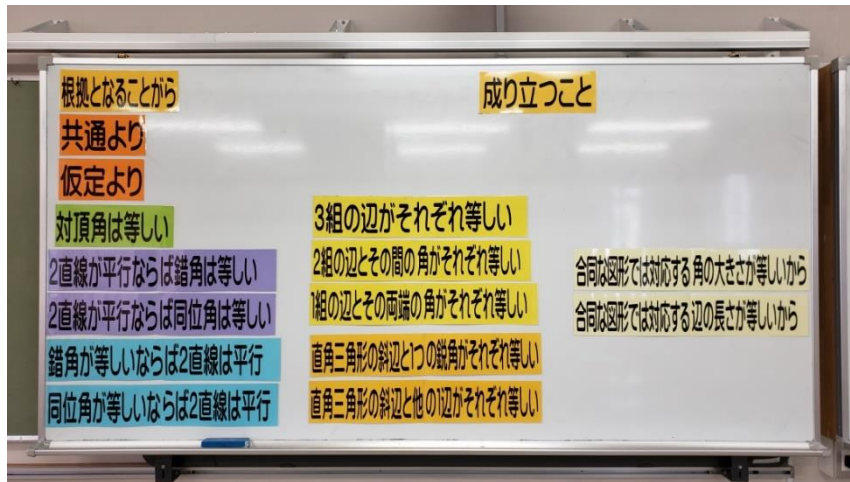
(ii) 個別指導について(取り出し指導、通級による指導との連携など)

特に行っていない。

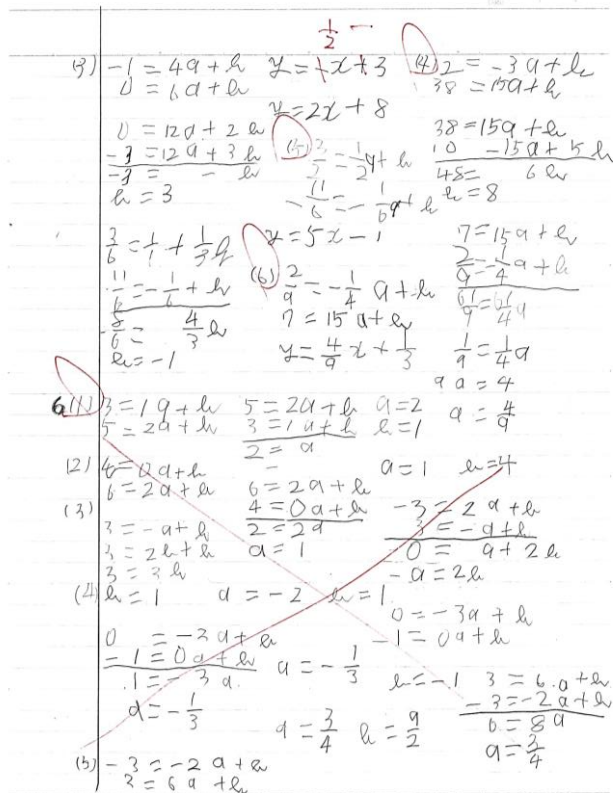
(4) (3) の効果・評価(児童生徒の様子や変容および授業の評価)

- ・ルールを作ることで、授業中にすることがはっきりしたため、「困り」はかなり減り、安定している。
- ・ノートのルールも明確にしたことで、見やすいノート作りができた。

【授業中に提示したカード】



【ノート】



(少し間を空けるなど、わかりやすいノートになった)

$2 = 10a + a \quad -2 = 0 + b$
 $-2 = 0a + b \quad b = -2$
 $a = \frac{2}{11}$
 $y = \frac{2}{11}x - 2$

(3)

$$\frac{1+7}{2} = 4 \quad \frac{-9+3}{2} = -3 \quad -3 = 4a + b$$

$$0 = -6a + b$$

$$-3 = 10a$$

$$a = -\frac{3}{10}$$

$$y = -\frac{3}{10}x - \frac{1}{5}$$

(4)
$$\frac{4+6}{2} = 5 \quad \frac{-1}{2} = 2$$

$$-4 = 0a + b$$

$$-4 = 10a + b$$

$$-b = -10$$

$$b = 6$$

$$y = 6x - 4$$

(5)
$$\frac{4+2}{2} = 3 \quad \frac{6-2}{2} = 2$$

$$2 = 3a + b$$

$$2 = -3a + b$$

$$3 = 6a$$

$$a = \frac{1}{2}$$

$$b = \frac{1}{2}$$

$$y = \frac{1}{2}x + \frac{1}{2}$$

(6)
$$\frac{1-9}{2} = -5 \quad \frac{4-8}{2} = -2$$

$$-1 = 3a + b$$

$$-2 = -6a + b$$

$$1 = 9a$$

$$a = \frac{1}{9}$$

$$y = \frac{1}{9}x - \frac{1}{9}$$

整数の性質を調べる。特に0桁の場合の本時の目標
 → 二本を使って P.29 ex 2桁の自然数と、その数の十の位の数字と一の位の数字を入れかえた数の和が11の倍数であることとを説明せよ。

もとの自然数の十の位の数字を a 、一の位の数字を b とすると、もとの自然数は $10a + b$ 、入れかえた数は $10b + a$

$(10a + b) + (10b + a) = 11a + 11b = 11(a + b)$
 $a + b$ は整数なので、 $11(a + b)$ は11の倍数。よってもとの自然数と、入れかえた数の和は11の倍数になる。

発展 百の位と十の位と一の位をたして3の倍数にふれば、もとの3桁の整数は3の倍数であることを説明せよ。

百の位を a 、十の位を b 、一の位を c とする。
 $100a + 10b + c = 3n$ n を整数として表せる

$100a + 10b + c =$

$c = 3n - 100a - 10b$ より、 $100a + 10b + (3n - 100a - 10b)$ に代入。
 $100a + 10b + 3n - 100a - 10b = 3n$
 $= 3n$
 $= 3(33a + 3b + n)$ $33a + 3b + n$ は整数なので、よってもとの3桁は3の倍数である。

【数学－2】

実践事例：高校1年生 / 実施機関：学校法人光華女子学園

●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

- ・計算のスピードが遅いため、定期考査では、時間が足りない状態になる。
- ・板書を写すのが遅いため、ノートに十分にまとめられず、理解も遅れる。
- ・数学的な見方・考え方の所で、自分の言葉で説明することが難しい。
特に、図形の知識理解を表現することに課題がある。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）

■その他

(2) 子供の困難さ

見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと

■コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること

落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること

学習（計算、推論等）すること その他

- （
- ・手を動かすスピードが明らかに遅く、授業時間内に写すことが困難である。
 - ・「見る」「考える」「書く」の切り替えが上手くできない。
- ）

2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

4月～5月下旬

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

担任・保護者・教科担任・特別支援教育支援員・学年教員等での情報共有

中間テストでの様子・ノート・テスト用紙・「気づきのシート」等から本人の困難さをつかむ

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・ノートを取ることに必死で、説明が聞けない。
- ・計算などのスピードが遅い。

(2) つまずいている背景・原因

- ・手を動かすスピードが明らかに遅い。
- ・「書くこと」に慣れていない、訓練できていない。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

(全体指導)

- ・教科の特性上、計算スピードも必須の能力であるため、まずは「計算スピード」にのみ集中させた。
- ・発言内容、解き方の判断、図の性質などをすべて板書し、消さずに時間の終わりまで残しておく。
- ・復習や小テストの学習時にノートのみを見れば理解できるようにノートを整理させる。
- ・問題の解き方を文章化すること。

(個別指導)

- ・数学補習の授業において、「考え方」を定着させるために、4人でグループワークを行った。授業時に一度解いたことのある問題を活用し、「答えの求め方」ではなく「問題を解くときに気をつけていること、意識していることを生徒自身の言葉でまとめさせる活動を行った。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

特に行っていない。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・具体的な効果は、まだ実感できていないが、定期考査や授業ノート、演習ノートを見ると、1学期の頃と比較して定着度は上がっている。
- ・定期考査の結果（コース偏差値－プリムラ全体偏差値）

1学期中間考査(46.1－42.9)	1学期期末考査(34.9－33.0)
2学期中間考査(40.0－35.1)	2学期期末考査(51.7－49.1)

【授業の進め方】

高1 プリムラ関大コース 数学A(一例)	
1分	挨拶、黙想
1分	本時の目標 確認
10分	問題演習(4STEP演習, 小テスト形式) ・前回の授業で演習を行う問題を指示 ・全く同じ内容を行い、基礎・基本の定着を図る
25分	例題解説 ・「書き」に特化させた時間 ・教師の発言内容、数式のもつ意味などを文字にする ・「なぜ？」を重視した質問の投げかけを行う ・別紙参照
10分	問題演習、解説(教科書 練習問題) ・教科書の練習問題の演習 ・例題解説時のノートを確認しながら、意味理解を重視
3分	振り返り

第2章 ユークリッドの互除法 147

例題 8 次の方程式の整数解をすべて求めよ。
 $45x + 32y = 4$

解

$45x + 32y = 4$ ①

①の右辺を1とした方程式 $45x + 32y = 1$ について、 $x = 5$, $y = -7$ はその整数解の1つである。

よって $45 \cdot 5 + 32 \cdot (-7) = 1$

両辺に4を掛けて $45 \cdot 20 + 32 \cdot (-28) = 4$ ②

①-②から $45(x-20) + 32(y+28) = 0$

すなわち $45(x-20) = -32(y+28)$ ③

45と32は互いに素であるから、 $x-20$ は32の倍数である。

よって、 k を整数として、 $x-20 = 32k$ と表される。

これを③に代入して $y+28 = -45k$

したがって、求める整数解は

$$x = 32k + 20, y = -45k - 28 \quad (k \text{ は整数})$$

【補題】 45と32は互いに素であるから、 $45x + 32y = 4$ を満たす整数 x, y は必ず存在する。方程式の整数解の1つが簡単には見つからない場合、互除法が利用できる。45と32に互除法の計算を行うと

$$\begin{array}{r} 45 = 32 \cdot 1 + 13 \quad \text{移項すると} \quad 13 = 45 - 32 \cdot 1 \quad \text{①} \\ 32 = 13 \cdot 2 + 6 \quad \text{移項すると} \quad 6 = 32 - 13 \cdot 2 \quad \text{②} \\ 13 = 6 \cdot 2 + 1 \quad \text{移項すると} \quad 1 = 13 - 6 \cdot 2 \quad \text{③} \end{array}$$

よって $1 = 13 - 6 \cdot 2 = 13 - (32 - 13 \cdot 2) \cdot 2 = 13 \cdot 5 - 32 \cdot 2$

$$= (45 - 32 \cdot 1) \cdot 5 - 32 \cdot 2 = 45 \cdot 5 - 32 \cdot 12$$

練習 20 次の方程式の整数解をすべて求めよ。

(1) $34x + 29y = 1$ (2) $41x - 15y = 5$

例題8

$45x + 32y = 4$ とおき、
整数解をすべて求めよ

① 解を1つ見つける
暗算で互除法

$45x + 32y = 4$ ①

$45x + 32y = 1$ ②

$45x + 32y = 4$ ③

①-②から $45(x-20) + 32(y+28) = 0$

すなわち $45(x-20) = -32(y+28)$

45と32は互いに素であるから、 $x-20$ は32の倍数である。

よって、 k を整数として、 $x-20 = 32k$ と表される。

これを③に代入して $y+28 = -45k$

したがって、求める整数解は

$$x = 32k + 20, y = -45k - 28 \quad (k \text{ は整数})$$

② 互除法

$45 = 32 \cdot 1 + 13$ ①

$32 = 13 \cdot 2 + 6$ ②

$13 = 6 \cdot 2 + 1$ ③

よって $1 = 13 - 6 \cdot 2 = 13 - (32 - 13 \cdot 2) \cdot 2 = 13 \cdot 5 - 32 \cdot 2$

$1 = 45 \cdot 5 - 32 \cdot 12$

③に4を掛けて $4 = 45 \cdot 20 - 32 \cdot 48$

よって $45 \cdot 20 + 32 \cdot (-48) = 4$

よって $x = 20 + 32k, y = -48 - 45k$

④ 合同式

$45x + 32y = 4$ ①

$45x + 32y = 4$ ②

$45x + 32y = 4$ ③

①-②から $45(x-20) + 32(y+48) = 0$

すなわち $45(x-20) = -32(y+48)$

45と32は互いに素であるから、 $x-20$ は32の倍数である。

よって、 k を整数として、 $x-20 = 32k$ と表される。

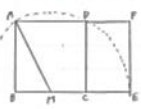
これを③に代入して $y+48 = -45k$

したがって、求める整数解は

$$x = 32k + 20, y = -45k - 48 \quad (k \text{ は整数})$$

高一 数学 全国 二 模拟题

11



求长 BE, CE, ED 是黄金比例 即 $\frac{BE}{CE} = \frac{CE}{ED}$

$$\begin{aligned} \frac{BE}{CE} &= \frac{CE}{ED} \\ \frac{1}{2} &= \frac{CE}{1-CE} \\ CE &= \frac{1-CE}{2} \\ 2CE &= 1-CE \\ 3CE &= 1 \\ CE &= \frac{1}{3} \\ ED &= 1 - \frac{1}{3} = \frac{2}{3} \end{aligned}$$

(1) $2x^2 = -(x-4) + 6 = 0$

$2x^2 = (x-4) + 6 = 0$

① 在解 $x=2$, $2x^2 = 2 - 10 = -8$

$(2x^2 + 5)(x-2) = 0$

$x = -\frac{5}{2}, 2$

② 在解 $x=3$, $2x^2 = 2 - 2 = 0$

$x = \frac{1 \pm \sqrt{5}}{2}$

(1) (1) $x^2 + 4x + 3 = 0$, $2x^2 = (x-4) + 6$

在解 $x=0$ 与 $x=3$ 时, 必有解存在在 $x=3$

$x = x + 3 = 0$, $2x^2 = -(x-4) + 6$

在解 $x=0$ 与 $x=3$, $x = -\frac{5}{2}, 2$

(1) (1) $p = 0$ 且 $q = 0$ 时, $q = p$ 且 $(p, q) = (0, 0)$

在解 $p = 0$ 且 $q = 0$ 时, $q = p$ 且 $(p, q) = (0, 0)$

在解 $p = 0$ 且 $q = 0$ 时, $q = p$ 且 $(p, q) = (0, 0)$

(2) $0 \leq x \leq 100$ 且 $0 \leq y \leq 100$ 且 $x + y = 200$

$0 \leq x \leq 100$ 且 $0 \leq y \leq 100$ 且 $x + y = 200$

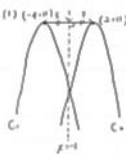
在解 $x + y = 200$ 且 $0 \leq x \leq 100$ 且 $0 \leq y \leq 100$

在解 $x + y = 200$ 且 $0 \leq x \leq 100$ 且 $0 \leq y \leq 100$

在解 $x + y = 200$ 且 $0 \leq x \leq 100$ 且 $0 \leq y \leq 100$

$0 \leq x \leq 100$

12



求 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程

在解 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程

在解 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程

在解 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程

在解 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程

在解 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程

在解 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程

在解 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程

在解 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程

在解 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程

在解 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程

在解 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程 C_1, C_2 的方程

(2) $f(x) = x(-2x + 1200)$

$= -2x^2 + 1200x$

$= -2(x^2 - 600x)$

$= -2(x^2 - 600x + 90000 - 90000)$

$= -2(x - 300)^2 + 180000$

在解 $f(x)$ 的方程 $f(x)$ 的方程 $f(x)$ 的方程

在解 $f(x)$ 的方程 $f(x)$ 的方程 $f(x)$ 的方程

$-2x^2 + 1200x \leq 400$

$x \geq 400$

在解 $f(x)$ 的方程 $f(x)$ 的方程 $f(x)$ 的方程

$60000 = (-2x^2 + 1200x) - 100 = -2x^2 + 1200x$

$g(x) = -2x^2 + 1200x - (200x + 10000)$

$= -2(x^2 - 700x) - 10000$

$= -2(x - 350)^2 + 105000$

$x = 350$, $g(350) = 105000$

在解 $f(x)$ 的方程 $f(x)$ 的方程 $f(x)$ 的方程

$g(x) = -2(x - 350)^2 + 105000 - 60000$

$= -2(x - 350)^2 + 45000$

$x = 350$, $g(350) = 45000$

在解 $f(x)$ 的方程 $f(x)$ 的方程 $f(x)$ 的方程

【外国語－１】

実践事例：中学校１年生 ／実施機関：学校法人光華女子学園

●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

- ・板書やプリントを書き写すことに時間がかかる。
- ・文章が書けない。ライティングに課題。文法事項の理解が困難である。
- ・「聞く」「話す」「読む」「書く」４技能の中で、支援が必要な技能がある。
- ・ある程度理解は出来ていることでも、楽しんで「コミュニケーション」することが難しい。
- ・言いたいことを伝えることが苦手である。
- ・単語（発音・綴り・意味）が覚えられない。（音声と文字を繋ぐことが難しい）
- ・文字が出てくると今までの興味関心が苦手意識に変わることもある。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

（１）対象の障害

自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）

■その他

（２）子供の困難さ

見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと

■コミュニケーションをすること ■気持ちを表現すること

■落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること

学習（計算、推論等）すること その他

- ・集団場面での指示の理解が難しく、学習に取りかかるのが他の生徒に比べて遅い。
- ・授業中集中できずぼんやりしている時もある。
- ・聞き取るのが弱く、情報が正確に伝わらない。
- ・事物の因果関係を理解することが難しい。
- ・早合点や飛躍した考えをする。

2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

（１）実態把握の時期

４月～６月はじめ

（２）実態把握の方法（実施者・方法）

担任・教科担任・特別支援教育支援員やスクールカウンセラーと実態交流

授業中の様子・テスト用紙・ノート点検・「気づきのシート」より状況把握

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・前向きに取り組んでいるが、自分の考えや意見を発表することは苦手である。
- ・コミュニケーションが苦手なグループワークでは消極的である。
- ・自信がないため、自分から発表しようという姿勢が乏しい。
- ・ペアワークはできる。

(2) つまづいている背景・原因

- ・聞き取るのが弱く、情報が正確に伝わらない。
- ・早合点や飛躍した考えをする。
- ・集中力に欠ける。
- ・自信がない。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

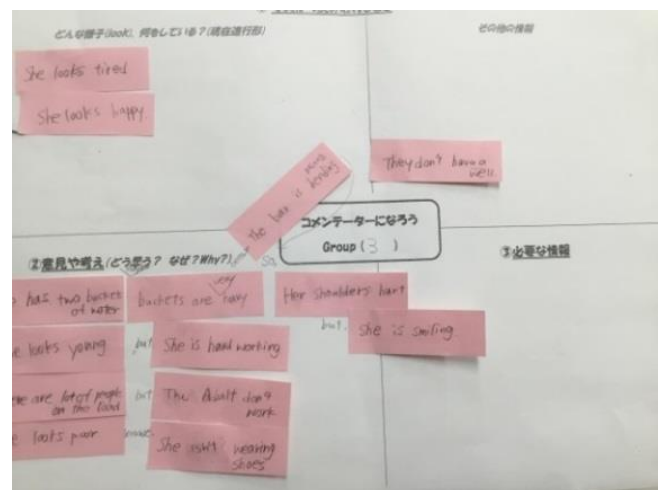
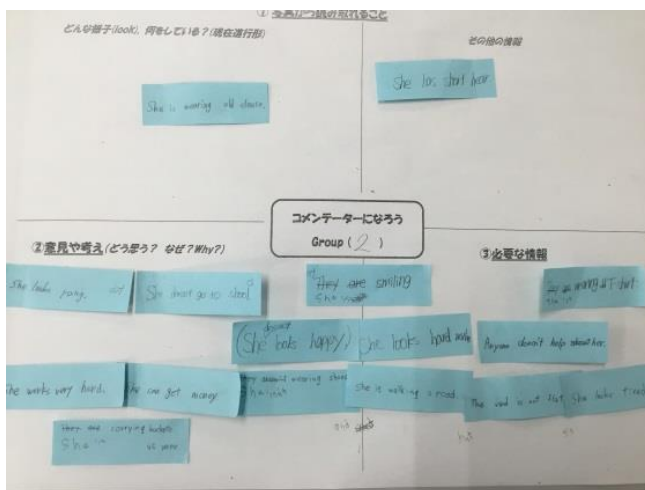
(i) 授業における全体指導、個への指導について

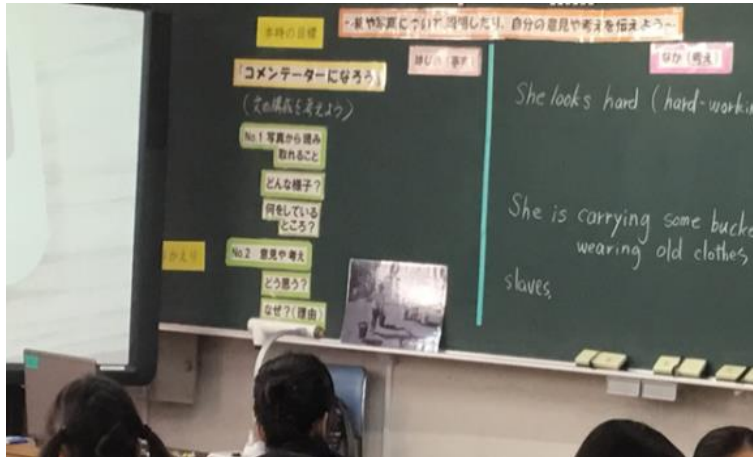
(全体指導)

- ・自信をつけてグループ内で話ができるようにするために教室内の雰囲気をつくる。
- ・質問について英語で答える時、生徒のモデルを示し、それらを参考にして発表できるようにする。
- ・「話型」を提示するなど、板書に工夫をする。
- ・グループでの話し方の例を示す。
- ・聞き手としての話し方 (Active Listening) を意識させる。
- ・付箋に短文を書き、グループでまとめて文をつくる。

(個別指導)

- ・自分の意見を短い文で発表できるようにモデルを示して支援する。
- ・書く際に参考となる文を提示する。
- ・出来たときは褒める。





相手意識をもった聞き手の指導
～Active Listening 聞き手としての話し方のコツ～

① あいづち

- うなずく同意する I see. Me, too.
- 感じたこと Nice! That's cool.
- 聞き返す Really? Is that right?
- 繰り返す Did you?
- 確認する You went to Osaka, right?
- 相手の話を促す And then?

② コメント

- 発表について Your speech is nice.
- 内容について I think he is positive because...
- 自分について I study hard, too.

相手にすてきなことばを贈ろう!

③ 質問

- 内容について Do you? When? Where?

繰り返し内容の確認をする

A: I went to USJ last week.

B: Oh, you went to USJ. Me, too.

うなずく 同意する 関心を示す

I see.
Uh-huh.
Oh, yeah?
Me, too.
That's nice.
I think so, too.
That's true.

話し手、聞き手としての心構え (小中共通)

即興でやりとりを継続するために、聞き手としての話し方を意識する

笑顔や相手の目を見て話しているかな？
相手が聞きやすい、話しやすい雰囲気をつくられているかな？

やりとりが続くように、相手が話しやすいことばかけをしているかな？

Share Ideas!

- S**peak clearly
- H**appy Face
- A**ttitude
- R**espect
- E**ye Contact

(ii) 個別指導について (取り出し指導、通級による指導との連携など)

- ・授業中での取り出し指導や、通級による指導は行っていないが、個別指導については、早朝や放課後時間をきめて行っている。

(4) (3) の効果・評価 (児童生徒の様子や変容および授業の評価)

- ・教室の中では失敗が許される雰囲気になっており、生徒たちが相手意識を持ってうけ答えをしてくれるので、「型」を使った文を言えるようになってきた。
- ・自分の短文をみんなの文とつけて、自分なりのコメント文を作れるようになった。

【外国語－２】

実践事例：中学校１年生 ／実施機関：学校法人光華女子学園

●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

- ・板書やプリントを書き写すことに時間がかかる。
- ・文章が書けない。ライティングに課題。文法事項の理解が困難である。
- ・「聞く」「話す」「読む」「書く」４技能の中で、支援が必要な技能がある。
- ・ある程度理解は出来ていることでも、楽しんで「コミュニケーション」することが難しい。
- ・言いたいことを伝えることが苦手である。
- ・単語（発音・綴り・意味）が覚えられない。（音声と文字を繋ぐことが難しい）
- ・文字が出てくると今までの興味関心が苦手意識に変わることもある。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

（１）対象の障害

- 自閉症 □情緒障害 □LD（学習障害） □ADHD（注意欠陥/多動性障害）
- その他

（２）子供の困難さ

- 見ること ■聞くこと ■話すこと ■読むこと ■書くこと □動くこと
- コミュニケーションをすること ■気持ちを表現すること
- 落ち着くこと・集中すること ■概念（時間、大きさ等）を理解すること
- 学習（計算、推論等）すること □その他

- ・言語理解領域での課題があり、バランスの悪い発達が見られる。
- ・ワーキングメモリーは低い。
- ・自分の気持ちがうまく伝えられない。
- ・新しい場面に適応するのに時間がかかる。
- ・周囲の流れの把握は難しい。
- ・調子が悪くなり精神的に不安定になると登校出来なくなることがある。

2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

（１）実態把握の時期

４月～６月はじめ

（２）実態把握の方法（実施者・方法）

担任・教科担任・特別支援教育支援員やスクールカウンセラーと実態交流
授業中の様子・テスト用紙・ノート点検・「気づきのシート」より状況把握

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・考え方のパターンが分かればパターン通りに言える。
- ・図形の関係性を推理していくことは不得意。
- ・単純な記銘の課題はがんばることができる。
- ・複雑な要素を含む聞き取りの課題には弱さが見られる。
- ・授業中の発言はしない。
- ・質問にはうなずくが答えない。

(2) つまずいている背景・原因

- ・発達のバランスが悪い。
- ・コミュニケーションがとれない。
- ・自信がない。
- ・初めてのことや先の見通しがつきにくい時は先に回避するため、参加出来なくなる。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

(全体指導)

- ・「KOKA Talk 活動」を行い、自然と授業に参加しやすいようにしている。

* 「KOKA Talk」とは

KOKA カードを用いて、相手意識を持って、ペアでチャットを行う。

チャットのトピックを提示しておいてチャットしやすくする。



- ・カードを前に提示して、相手の気持ちや様子を考えながら質問をしたり答えたり簡単なチャットをする。
- ・「相づち」「コメント」「質問」等相手意識にたって話す。
- ・「繰り返し内容を確認する」など形をきめておいてチャットしやすいようにする。

(個別指導)

- ・事前活動を行う。(チャット授業をするときは安心感をもたせるために短時間、本人に型を教えて事前活動を行う。)
- ・トピックについては事前に伝える。
- ・1回目のペア活動は教員と行い、話す内容を相互に確認しておく。
- ・ペアの交代については事前に本人に確認しておく。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

- ・ 放課後等を活用して事前活動の時間を作っておく。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・ 本人は「KOKA Talk」時はとても笑顔で会話をし続けることができる。
- ・ 普段の授業とは見違える程明るい表情。
- ・ カードを使用することで自ら質問を投げかけることもできている。
- ・ 友人のサポートも大きい。

（右：本人の好きな筆箱のキャラクターについて質問をすると答えやすい。）



【外国語－3】

実践事例：中学校3年生 / 実施機関：学校法人光華女子学園

●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

- ・板書やプリントを書き写すことに時間がかかる。
- ・文章が書けない。ライティングに課題。文法事項の理解が困難である。
- ・「聞く」「話す」「読む」「書く」4技能の中で、支援が必要な技能がある。
- ・ある程度理解は出来ていることでも、楽しんで「コミュニケーション」することが難しい。
- ・言いたいことを伝えることが苦手である。
- ・単語（発音・綴り・意味）が覚えられない。（音声と文字を繋ぐことが難しい）
- ・文字が出てくると今までの興味関心が苦手意識に変わることもある。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）

■その他

(2) 子供の困難さ

見ること 聞くこと 話すこと ■読むこと ■書くこと 動くこと

■コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること

落ち着くこと・集中すること ■概念（時間、大きさ等）を理解すること

学習（計算、推論等）すること その他

- ・真面目で、前向きに取り組むが、発言に対して消極的であり、スピーキングに自信が無い。
- ・学力全体も、初歩的な部分からの学び直しが必要である。
- ・教員が横について、学習をすると意欲的で単語や文章についても読めるなど一定の定着がみられるが、時間がたつとぬけて定着していない状況がある。

2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

4月～5月下旬

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

担任・教科担任・特別支援教育支援員等と連携し状況を把握

テスト時・テスト用紙・ノート・「気づきのシート」で実態を把握し共通理解

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・板書やプリントを書き写すことに非常に時間がかかる。
- ・英文を覚えることができない。書くことができない。文法事項の定着が困難。
- ・4技能全体的に課題があるが、特にライティングに遅れが見られる。
- ・自分が今どここの学習をしているか分からなくなる。
- ・スペルのミスが非常に多い。
ex) b と d の使いわけ。p と q の使い分け。meat maet など。

(2) つまずいている背景・原因

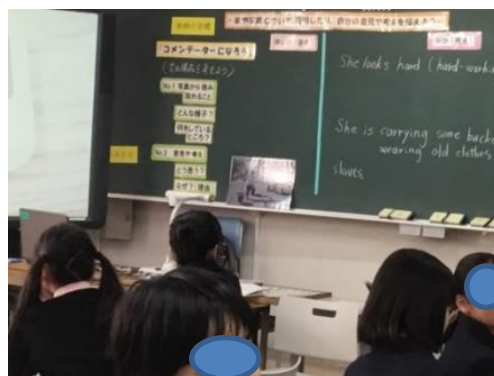
- ・初歩的な部分の学びができていない。特に「書く」という技能に関しては支援が必要な状態である。
- ・丁寧に行動するため、一つ一つの動作に時間がかかり、なかなか次の作業に移行できないため、結果授業についていくのが難しくなっているという側面がある。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

(全体指導)

- ・極力板書は（要点の部分穴抜きにしたプリントなどを用意し）避け、文法を教える際にも文法項目を説明するよりも沢山練習を通して覚えるようにし、その後文法の説明を必要に応じて端的に行う形式にした。
- ・理解の促進のためにパワーポイントを使って絵や図も多用した。
- ・情報量が多いと思わす思考停止してしまうので、単語などは一覧的なものからフラッシュカード形式にして一問一答で答えるようにしている。
- ・「話型」を示して（定型表現や書き方）、英語の文が作りやすいようにした。
- ・生徒同士で楽しみながら英語を使う場面や相手意識をもって「聞き手」「話し手」の立場にたった。
- ・英語と日本語の結び付きが分からない場合は色分けする。



(個別指導)

- ・英文暗記は、日本語と英語の結びつきが分からなくすようにした。



(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による

- ・取り出し指導また通級による指導は実施せず、授業中には、特別支援教育支援員が「入り込み指導」を行い、生徒の困りの状況を教科担任と共有する。放課後は本人と保護者の意志で「放課後学び教室」に週2回参加する。
- ・放課後は特別支援教育支援員と併設する大学心理学科またこども教育学科の学生ボランティアとともに、学習を行う。主に授業中、理解が出来なかった部分の復習やテスト

トの事前取組等を行う。場合により、「困り」についてカウンセリングやソーシャルスキルトレーニングも行う。

注：「放課後学び教室」：学習面やコミュニケーションに困りを抱えている生徒を個別に支援する。

担当者（支援員・ボランティア学生）、月・火・木曜日 15:15～17:00



(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・スピーキングに関しては改善の兆しが見えた。
- ・定型表現や書き方を示すことで、できるだけ自分の力でライティングができるようになった。
- ・単語学習の際にフラッシュカード形式にすることに関しても、情報を限定することで集中することができ、格段に暗記するスピードが速くなった。
- ・放課後も自分から積極的に参加し熱心に取り組んだ。

【外国語－４】

実践事例：高校２年生 / 実施機関：学校法人光華女子学園

●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

- ・英単語が正しく発音できないため、英文をリーディングするのが、難しくなる。
- ・理解が遅いため、板書・読みなど、すべてのところについていけない。
- ・「読む」「書く」「話す」「聞く」また「やりとり」に課題が見られる。
- ・「読み」のスピードについていけない。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）
■その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること ■聞くこと ■話すこと ■読むこと ■書くこと 動くこと
■コミュニケーションをすること ■気持ちを表現すること
■落ち着くこと・集中すること ■概念（時間、大きさ等）を理解すること
■学習（計算、推論等）すること その他

- ・担当教員の指示が、すぐに理解できず、今何をやっているか理解ができない。
- ・取り残されると、集中力がなくなり、ぼんやりしてしまう。悪循環が起きる。
- ・授業に集中せず、ぼんやりしていることが多い。
- ・同じ質問を何度もする。
- ・自分の思い通りに事が進まないと、イライラすることが多い。
- ・集団の場面での指示が難しい。
- ・読みにくい字を書く。

2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

5月下旬にまとめ

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

昨年度からの引き継ぎ 担任・教科担任・学年・研究部気づきのシート 担任所見

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・英単語が正しく発音できない。
- ・英文を一文続けて正確に読むことができない。
(単語1語ずつしか読めず、切れてしまう)

- ・ノートにきちんとまとめる（プリントを貼り付ける）ことができない。
- ・ペアワークで、相手とのやり取りがスムーズにできない。
- ・文字をゆっくり丁寧に書くことができない。

(2) つまずいている背景・原因

- ・指示されたことへの理解力が弱いため、頭の中で色々なことが交錯して、物事を整理できない。
- ・自分の考えや思いを言葉としてうまく伝えられない。(意思疎通の困難さ)

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

(全体指導)

- ・授業の流れを示す「カード」を作成し、示す。
- ・本文の発音練習を「センテンスリーディング」から「フレーズリーディング」中心に変え、特に読みにくい単語をピックアップし、繰り返し練習させた。
- ・ペアワークの仕方についてわかりやすく説明し、例を上げて示した。
- ・説明した後にノートに書き写す時間を与え、皆が書き終えたことを確認して（まだ書き切れていない生徒には挙手させる）次へ進んだ。
- ・どこを読んでいるか色で示しながらリーディング活動をした。(デジタル教科書を拡大し、読んでいる所が赤く変わるのを活用する。)
- ・何の活動をやっているかアクティビティ毎にカードで示した。
- ・電子黒板に映し出す文字を今までよりも大きくした。
- ・英語の歌を教材として利用した。

(個別指導)

- ・音読練習では傍に行き、本人が読めない単語がないか聞き出し、一緒に発音した。
- ・ノートに、プリントをどのように貼るのか具体的に示した。(切り方など)
- ・机間指導の時に、何をやっているのか、その都度確認させた。

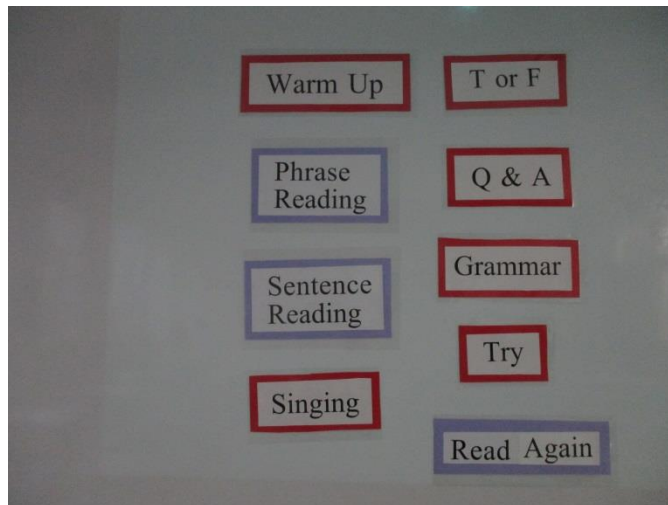
(ii) 個別指導について (取り出し指導、通級による指導との連携など)

特に行っていない。

(4) (3) の効果・評価 (児童生徒の様子や変容および授業の評価)

- ・音読練習で少しずつ声ができるようになってきた。
- ・授業中は居眠りをする事なく、読みにくい文字ではあるが板書内容を書き写すことはしている。

【本時の流れ】



【フレーズリーディング】

Reading Skill 2

フレーズ・リーディング The Toughest Creatures

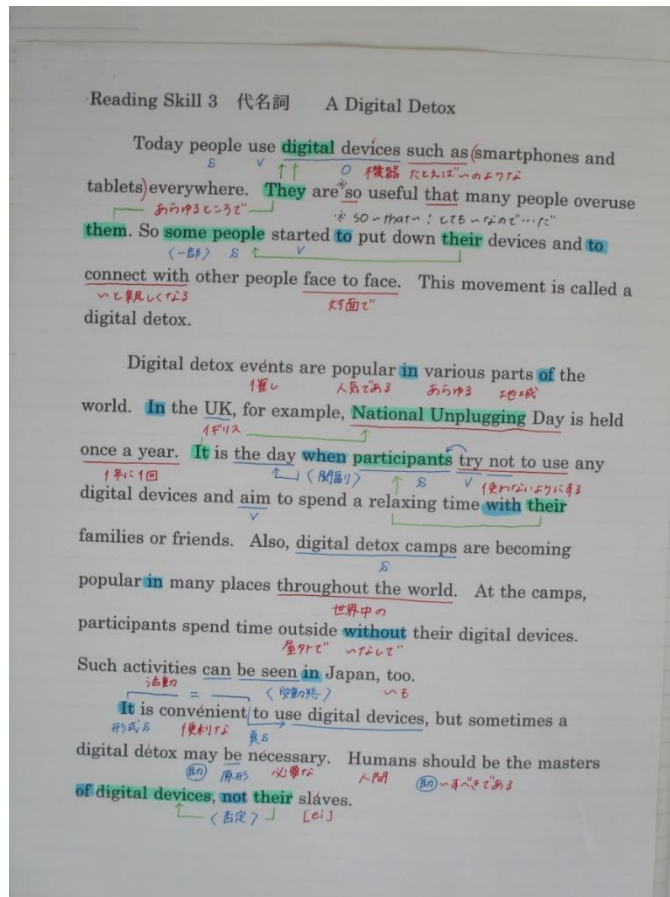
There are creatures / called **water bears**. // **They** prefer wet environments / and walk **like** bears. // However, / **unlike** bears, / water bears are very small. // **They** are usually / about 0.05 millimeters / to 1.2 millimeters **long**. //

Water bears ^{*}are regarded **as** the toughest creatures **in** the world. They can survive temperatures **from** minus 270 degrees **to** 150 degrees Celsius and endure the pressure **of** 75,000

Handwritten notes:

- 生き物 (creature) → water bears
- P.P. (分詞形容詞) (P.P. (participle adjective)) → called
- 〜よりも...を好む (prefer) → They prefer
- 湿った 環境 (wet environment) → wet environments
- 〜のよう (like) → like
- 〜と違って (unlike) → unlike
- ふつう (usually) → usually
- 長さ (length) → long
- 〜をAとしてBとみなす (regard A as B: AをBとみなす) → regard A as B: AをBとみなす
- 生存できる (survive) → survive
- 耐える (endure) → endure
- 圧力 (pressure) → pressure

【センテンスリーディング】



【デジタル教科書による音読】

